

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービスたいよう		公表日 令和 8年 2月 27日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		整理整頓を徹底し、折り畳み式の座卓などを活用することでスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		スタッフ同士でも打ち合わせし、適切な人数になるように調整している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		室内の使い分けが児童にも周知できている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃、除菌作業を徹底し、安心で心地よい環境づくりに努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		状況に応じて児童の活動スペースを広げ、柔軟に対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎週の定例会議や朝礼だけでなく、支援前の時間も活用し行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の内容や日々のコミュニケーションの中から、意向をくみ取り支援に反映している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所での意見を集約し、月に1階の運営会議（管理者と児童発達支援管理責任者による会議）で共有し、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		事業規模に応じて今後検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○	現在必要な研修のみを行っているので、支援の幅を広げたり、知識を深める研修を今後実施したい。	研修の機会では指定基準上求められる研修が最優先になってしまっている。専門家や外部機関による研修も取り入れたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域に基づいた支援計画に移行。作成し、HPや面談時に公表されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的に面談を行い、ニーズや課題を聞き取り、計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画書作成の前後に事業所内でカンファレンスや支援計画の読み合わせを実施している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書作成後に読み合わせをお行い、支援の方針も共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		中間評価での評価（保護者や支援者）や日々の活動個票、支援経過などで確認している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			計画作成時に各項目に合わせた目標を設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々の打ち合わせ、カンファレンスにて意見を出し合い、それをもとに立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		一人ひとりの興味関心に応じながら、固定化しそうなときにはアドバイスやアイデアの提示を行っている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個に対する支援と集団での支援を時間を設けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	打ち合わせは毎日実施しているが、人事配置変更のため、連携がうまく取れていないことがある。	日々のコミュニケーションや意見交換を活発にするためのチーム作りを組織的に取り組んでいく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼がないので、翌日の朝礼で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個票だけではなく、支援経過にも記録を残して支援内容を見直している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に面談を行い、ニーズや課題を聞き取り、適宜見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		単調な支援内容にならないように、工夫して組み合わせている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		児童が見通しをもてるようにし、自己選択、決定の機会を増やすように努めている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		直接支援に携わっているスタッフが出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	医療機関等は直接連携をとることが難しく、保護者経由で診断結果や意見書を共有してもらっている。	保護者の了承を得たうえで、協力を依頼したが、快く対応してもらえなかったことがあった。連携を円滑に進めるためには課題があるので今後検討していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校からの週報を保護者から共有してもらい、適切に対応している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		書面での通知や担当者会での共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			事業所として対象者がいなかったのに対応実績はないが、今後必要に応じて検討していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			助言やアドバイスが気軽にできるような環境を整えていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域の児童とはお出かけ先などで交流することができている。	交流を目的とした機会を設けられなかったが、今後ニーズを確認しながら対応を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		協議会等の情報共から課題としていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の送迎時や都度連絡することで情報を共有し、理解を得ている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		家族と同じ視点で支援に臨めるように。今後検討していく必要がある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		必ず説明を行ったうえで契約を交わしている。また利用者負担に関することは都度確認し、了承を得ている。	
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		アセスメントやモニタリングのタイミングで、面談を行い直接、保護者に確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		必ず直接説明し、同意を得た上で交付している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		困りごとや相談があった際にも、個人の見解に寄らず、チームで情報を共有し、解決策や明確な返答ができるように心掛けている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		目的をもった支援が有効に行えるように、保護者同士の連携を図ることも必要。今後検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○	迅速に対応できるよう、情報が入った時点で事業所（会社）で共有し、対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○	利用時の活動状況の記録を渡し、口頭でも説明を行う。Facebook（プライベートページ）にて写真も毎日更新している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	契約書面等にて、個人情報の取扱いについては十分注意するよう、定めている。スタッフ全員が十分に配慮し、取り扱っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	相談しやすい環境や関係づくり、特性に合わせた対応を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		一部の地域住民からは普段の活動を通して理解を頂いているが、地域全体としては課題が残る。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	日頃より様々な方向で周知している。災害や事故発生時にはLINEなども活用してお知らせしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	定期的に確認と訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○	契約時と普段のアセスメントやモニタリングのタイミングで、面談を行い直接、保護者に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	対象者はいないがおやつ提供時には十分に配慮している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	定期的に研修や訓練を行い、都度内容の見直しも行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	災害や事故発生時の情報共有や対応（緊急連絡先）などは事前に確認、共有している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○	各事業所ごとにヒヤリハットを作成し、記録を共有、見直しを行っている。	すぐに記録し、次に活かすために記録しやすい書式を採用している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○	定期的な研修、委員会による状況確認を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	濃く即が必要な事例はないが、もしものときの対応については保護者にも説明し、同意を得ている。また判断をチームで行えるようにしている。		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス たいよう

公表日 令和 8年 2月 27日

利用児童数 15名

回収数 10名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	1	0	0	記述回答なし	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	0	0	1	記述回答なし	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	1	0	2	記述回答なし	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	1	0	0	記述回答なし	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	0	0	0	記述回答なし	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	0	0	0	記述回答なし	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10	0	0	0	記述回答なし	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	0	0	0	記述回答なし	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	0	0	0	記述回答なし	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	0	0	1	記述回答なし	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	2	2	5	記述回答なし	
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0	記述回答なし	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	0	記述回答なし	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	0	2	4	記述回答なし	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	9	1	0	0	記述回答なし	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	1	0	0	記述回答なし	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9	1	0	0	記述回答なし	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	1	2	4	3	記述回答なし	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	1	0	1	記述回答なし		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	1	0	1	記述回答なし	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	0	0	1	記述回答なし	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	1	0	0	記述回答なし	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	0	0	3	記述回答なし	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	0	0	3	記述回答なし	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	0	0	1	記述回答なし	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	0	0	2	記述回答なし	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	0	0	0	記述回答なし	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	1	0	0	記述回答なし	
	29	事業所の支援に満足していますか。	9	0	0	1	記述回答なし	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス たいよう		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 14日		～ 令和 8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 14日		～ 令和 8年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所での打ち合わせや会議が自主的に行われている点や児童の支援についての情報共有意見交換が細やかに行っていることは強みである。 ・児童の特性や興味関心に合わせて支援スペースや環境に適切な配慮がなされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の関係上、終礼はないが、次の日の朝礼や打ち合わせで情報を整理した上での共有が図れている。全スタッフが集まる会議を週1回開催していることで振り返りや共有の機会がもたげられている。 ・その日の支援に関して、早急に共有すべき内容はLINE等を活用し、速やかに報告、対応できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている研修を継続しつつ、指向上必要な研修も多岐に渡っておこなう必要がある。 ・加えて支援に関する研修の実施や放課後等デイサービス事業についての専門性を高める研修を検討する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの行事や工作なども行い、工夫している。活動内容に関しては固定化しないようにスタッフ間でも気を付け、また児童たちからの希望を聞きながら活動を決めている日も多く、自己決定の機会が設けられている点も強みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談時の意見に対しては個人的な見解ではなく、役員や管理者に共有し、組織として回答できる体制が整っている。 ・アセスメントやモニタリングの場面ではなるべく詳しく利用状況の説明ができるように児童発達支援管理責任者だけでなく児童指導員がなるべく一緒に面談に入れるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの児童の様子やささいな変化も見逃さないような支援体制の継続と環境整備の徹底していく。 ・加えて限られた事業所内で工夫できる点はどんどん進めていき、より良い支援体制作りに努めていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会や安全確保、衛生管理委員会もそれぞれ隔月で行い、研修も実践していることもスタッフの研鑽につながっている。 ・BCPの共有や緊急時の訓練なども定期的に実施し、ヒヤリハットなどでも安全確認を日ごろから振り返り、記録を残せていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業として必要な研修以外に、上記のような事例研修や交通安全講習会、AED使用訓練など様々な研修がスタッフの研鑽につながっている。 ・避難訓練も年2回、地震(津波等)と火災と分けて実施しており、安全計画とBCPの見直しに繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングやアセスメントの際に、保護者が本人や家族の意向や相談がしやすいよう、できる限りすべて対面で行っている。今後はもっと保護者が気軽に相談できるように事業所内や家庭での相談支援も行っていく。 ・また就労訓練や分野特化型の放課後等デイサービスなどの情報も備え、スタッフの知識の研鑽にも努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の実施は今年度も達成できなかった。 ・場所の問題が一番大きく、感染症対策を行いながら集まるには事業所内では不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の問題もあるが、保護者のニーズがどれほどあるのかが把握できていなかったことが要因として考えられる。また地域の児童クラブ側も、そのような交流の機会を大切にもらえて賛同してくれるかなど、実際に取り組まないといけない課題もある。実施している別の事業所の情報を集めつつ実現可能な形を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や児童クラブとの交流などを日常的に実践している事業所の事例も踏まえ、自事業所として開催可能な形を模索する。 ・外部の施設などを活用したり、イベントと一体的に行ったりして、開催規模を考慮しながら実施できる形を検討していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の児童クラブなどとの交流は、本人が地域の一員として自立していくための手立てとして必要性があるが、そういった施設との交流活動は積極的に設けていなかった。 ・児童クラブとの交流が保護者のニーズとして実際に求められているのかを確認していき、今後検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や公共施設を利用したり、地域の自治体や施設の開催しているイベントには参加したりすることはできているが、児童クラブや児童館との交流は企画したことがなかった。実施例などを指定権者や行政に確認したこともなかったため今後は他の事業所がどのような取り組みをしているのか、調べていくことから取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービス事業所として、求められる研修や訓練の実施し、また療育・特別支援への理解を深めていくような研修や専門家による研修会、講和の機会を設定し、スタッフの研鑽に努める。 また他の法人がどのような研修を行っているか、情報収集も行っていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のイベントや行事に地域の方が来られるような機会も今まで設けていなかった。過去には地域の方を外部講師として招いての工作教室も実施したが、児童の特性を配慮しつつ実施するのは難しかった。 ・放課後等デイサービス事業所として、事業への認知や理解を深めてもらうためにも機会を設けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所を交えての担当者や学校での連絡会などでは、他事業所と関われる機会がないことも課題の要因と考えられる。療育に関わる事業所として、横との連携を密にし、事業研究の機会や研修の機会を今後検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所として、保護者が相談しやすい事業所となるためにも、地域の方々にも支えてもらう事業所となるためにも、積極的な面談の機会や交流会を実施していく。